

歴史と対話する建築

Architecture in Dialogue with Architectural History
Redefining the blooming "RENOVATION" of Old Buildings



魚谷繁礼

1977年兵庫県生まれ。建築家。
2003年京都大学大学院工学研究科修了。
2020年より京都工芸繊維大学特任教授。
2012年関西建築家新人賞（西都教会）、
2021年JIA新人賞（コンテナ町家）、
2022年関西建築家大賞（コンテナ町家
／SOWAKA）、北陸建築文化賞（志積
プロジェクト）、2023年日本建築学会賞
（郭巨山会所）などを受賞。

UOYA Shigenori

photo Yohe Sasakura

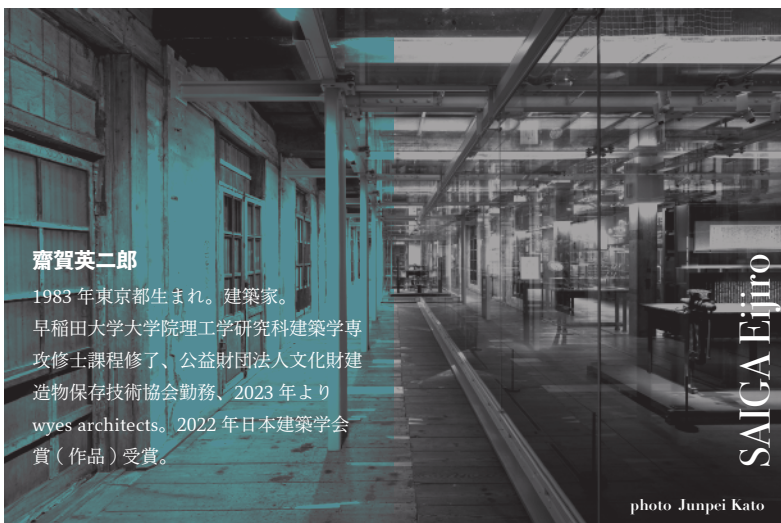


家成俊勝

1974年兵庫県生まれ。建築家。
京都芸術大学教授。2004年、dot
architectsを設立。アート、オルタナティ
ブメディア、建築、地域研究、NPOな
どが集まるコーポ北加賀屋を拠点に活
動。代表作はUmaki Camp（2013、小
豆島）、千鳥文化（2017、大阪）など。
第15回ヴェネチア・ビエンナーレ国際
建築展（2016）にて審査員特別表彰を受
賞（日本館出展作家）。第2回小嶋一浩
賞受賞。

IENARI Toshikatsu

photo Yuma Harada



齋賀英二郎

1983年東京都生まれ。建築家。
早稲田大学大学院理工学研究科建築学専
攻修士課程修了、公益財団法人文化財建
造物保存技術協会勤務、2023年より
wyes architects。2022年日本建築学会
賞（作品）受賞。

SAIGA Eijiro

photo Junpei Kato

「リノベーション」を再定義する

近年、既存建築を改造・改築して使い続ける「リノベーション」がもてはやされている。その背景にはエコロジーや地域文化への着目があり、建てては壊すを繰り返してきた高度成長期の日本社会に対する反省もある。既存の建築物には、その建築固有の「歴史」が織り込まれており、それが新築設計との違いであるが、その「歴史」をどのように読み込むのかは設計者によってさまざまである。建築史というフィルターは必ずしも必要ではなく、設計者独自の視点で自由に解釈してよいし、逆にその「歴史」には目を背け、ドライにストックとして活用するという方法もあるだろう。歴史的建築の改修に多く取り組む、現代の建築家たちはどのように既存建築の「歴史」と対話しているのだろうか。今回のシンポジウムでは、リノベーションを題材に、従来乖離してきた「建築史」と「現代建築デザイン」の接点を探りつつ、両者の関係を改めて問い直したい。

会場：

立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館
(対面のみ)

日時：

2024/03/09(土) 13:00 - 17:00

司会：前川歩(畿央大学)

主旨説明：青柳憲昌「これからのリノベーション」
(立命館大学)

□発表：

発表①：魚谷繁礼「都市の時間を重ねる」
(魚谷繁礼建築研究所、京都工芸繊維大学)

発表②：家成俊勝「北加賀屋と千鳥文化」
(dot architects、京都芸術大学)

発表③：齋賀英二郎「建築と向かい合う姿勢について」
(wyes architects、元文化財建造物保存技術協会)

□討論・コメント：

魚谷×家成×齋賀×青柳×前川
田中 禎彦(文化庁)
大場 修(立命館大学)

定員：200名(先着順)

参加費：無料

申し込み：3月2日までに近畿支部ウェブサイトからお申込みください。

<http://kinki.aij.or.jp/activity/history/index.html>

懇親会：シンポジウム後、会場近辺にて開催(予算5,000円程度)。出欠をあわせてご連絡ください。

問合せ：青柳憲昌(norimasaaoyagi@gmail.com)

主催：日本建築学会近畿支部建築史部会

後援：日本建築学会建築歴史・意匠委員会 日本建築史小委員会